

弊社 沖縄工場 移転のご報告

半導体製造装置向け耐熱ダクトホース製品など新たに生産、県外への販売も強化

弊社はこの度、沖縄工場（沖縄県うるま市）を同市内に移転することといたしましたのでお知らせいたします。移転により生産能力を拡大し、2025年10月の稼働を目指します。

1. 本移転の目的

弊社は2012年に沖縄工場（沖縄県うるま市州崎7-20）を開設し、那覇空港の拡張工事や県内の多数の橋梁建設など、多くのインフラ整備や公共事業向けに地中埋設電線保護管やPC橋梁用ケーブルダクトなどの製品を供給してまいりました。このたびの移転により、生産効率と生産能力のさらなる向上を目指し、生産と在庫管理を同一工場内で統一し製造から出荷までの一貫体制を整備します。これにより生産能力は1.5倍以上に向上し、より効率的かつ安定した供給が可能となります。また、新たに土木用排水パイプと半導体製造装置にも用いられる耐熱ダクトホースの製造を開始します。これまで沖縄県内の需要が中心でしたが、県外への販売も強化し、地域発展及び国土強靱化に引き続き貢献してまいります。

2. 移転後の製品ラインナップ

主力製品（1）～（2）に加え、新たな製品（3）～（4）を生産いたします。

（1）TACレックス（用途：電気・通信ケーブルを地中埋設する場合の電線保護管）

メガソーラー発電所や風力発電所といった再生可能エネルギーの設備で使われ、クリーンエネルギーの普及をサポート。

（2）ポリエチレン製シース（用途：PC(プレストレストコンクリート)橋梁用ケーブルダクト)

海に囲まれた地域で建設されるPC橋梁に使用され、塩害対策やインフラ設備の長寿命化を支援。

（3）TACプレス（用途：土木造成工事用 暗きょ排水管）

（4）TAC耐熱ダクト（用途：半導体製造装置向け耐熱ホース）

半導体装置に組み込まれることで機械作動時の熱排出やクリーンルームなどの低発塵を要求される環境での送・排気ダクトとして最先端の設備を支える。

3. 東拓沖縄工場 概要

移転予定地：沖縄県うるま市

移転後設備：土地 5,200 m²、建物 1,500 m²

4. 今後のスケジュール（予定）

2025年2月：着工予定

2025年8月：完成予定

2025年10月：稼働予定